

プラス1ピースの読書会

～あなたの読書体験に一片のいるどりを～

Vol. 17

オルガ・トカルチュクの世界

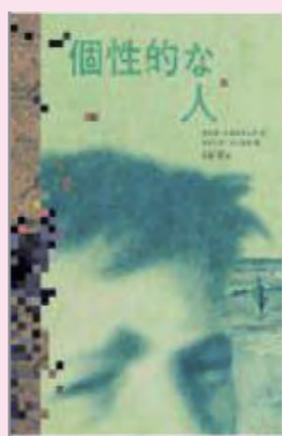


翻訳者がノーベル賞作家と作品の魅力語る

2018年度のノーベル文学賞を受賞したポーランドの小説家オルガ・トカルチュク。小椋彩先生は、彼女の主要作品を翻訳しており、作家自身とも交流があります。

今回のプラス1ピースの読書会では、翻訳者から見たトカルチュク文学の魅力や特質を語っていただきます。1989年の体制転換後に登場、新世代作家の旗手として注目を浴び、「新聞しか読まない人を文学に呼び戻した」と言われたこの作家の作品は、ポーランド文学のなかでどのように位置づけられるのでしょうか。あわせて、作品との出会いや翻訳するきっかけなどいくつかのエピソードを語っていただきます。

また「文芸翻訳」という活動そのものについて、どのような流れで行うのか、翻訳する際の苦労や工夫、やりがい、トカルチュク作品の翻訳ならではのエピソードについてもお話しいたしましょう。



他者への寛容が神話ではないと今こそ証明しなければ
ならない昨今の世界状況において、15人目の女性の
ノーベル文学賞受賞者がまさに彼女であることには、
これまでにないくらい大きな意義がある。
～『毎日新聞』ノーベル賞受賞への寄稿より

web 書香の森
小椋彩先生の著作紹介



日時：2024年10月24日(木)

12:20 ~ 12:45 12:45以降5分程度Q&Aタイムあり

場所：北海道大学文学研究院「書香の森」
(玄関ホール横)

著者・おはなし：小椋彩 准教授
(欧米文学研究室)

お問い合わせ先：
北大 文学研究院 研究推進室
Tel: 011-706-4083

詳しい内容：
文学研究院ウェブサイト イベント情報
<https://www.let.hokudai.ac.jp/>

主催：北海道大学 大学院文学研究院

今回のプラス1ピースは？



きのこの美味しい
季節ですね。
文学ときのこの
関係性とは？